

Web における合意形成 主として Wikipedia について

07L4184 小塚 洋貴

1. 合意形成とは何か

合意を作ることを合意形成という。合意とは利害や意見が対立する人々の総意あるいは多数意見のことを指す。

2. Web における合意形成

匿名電子掲示板やブログ、Twitter など、意見交換が可能な場所は Web 上に多数存在している。匿名電子掲示板は悪名も高いが、話し合いの場としてきちんと使われていることもある。ブログはそれ単体で議論の場として使われているだけでなく、トラックバック機能によるブログ同士での議論も活発に行われている。Twitter は文字数制限が厳しいが、手軽に投稿できることから意見募集や講演会などでの利用が散見される。

3. Wikipedia について

ジミー・ウェールズが 2001 年に創設したオンライン百科事典であり、アメリカにある非営利組織 Wikimedia 財団が運営している。運営費用は寄付で賄っており、広告収入などはない。誰でも自由に執筆、編集することができる。Wikipedia のユーザー（執筆者・編集者）は、実名または匿名でアカウントを登録している「登録ユーザー」と登録していない「IP ユーザー」にわかれる。参加者には基本方針などのルールに従うことが求められている。特に重要視されているルールには以下の三つがある。

① 中立的な観点

ある事柄について意見が対立している場合、両者の意見を載せて何故対立しているかを説明する。ただし、少数意見を多数意見のように見せかけてはいけない。

② 検証可能性

他者が確認できないような情報源を使ってはいけない。推奨される情報源としては書籍や雑誌、学術論文などがある。特に査読者や編集者が関わっている物が良いとされる。

③ 独自研究は載せない

検証可能性と同様、他者が確認できない情報を載せてはいけない。持論を展開する場合は学会などで発表する必要がある。既に発表された情報を歪曲することも禁止する。

Wikipedia では論争の解決の手段として、① 回避、② 論争の相手と話し合う、③ 第三

者を交えて議論する、④ 投票、⑤ 仲裁、が示されている。

4. 調査

Wikipedia 内で行われている論争の幾つかを選び、議論内容の分析を行った。選定基準は明確ではないが、カテゴリや議論の流れが違う事例を選んだ。具体的には次の五つである。

(1)“天動説”の記事、現代の天動説という節について

ある IP ユーザーが「大きな誤謬」として記述を削除し、挑発的な言動を繰り返したが、当事者の登録ユーザーが冷静に対応し、両者が納得する形に記事内容を変更した。

(2)“青葉通り”の記事、掲載画像の差し替えについて

ユーザーA がユーザーB の写真を自分の写真に置き換えた。B は A が「管理者」に値しないと発言し、最終的には投稿ブロックされる。

(3)“新世紀エヴァンゲリオン”の記事、著名人ファンという項目の是非について

ある IP ユーザーが「芸能界におけるファン」という項目を削除し、議論となった。このような記述についての基準について議論がおこなわれ、最終的には元に戻された。

(4)“ヒト”の記事、ヒトの強さについて

登録ユーザーA が登録ユーザーB の記述を「特に根拠があると思えない」と削除した。話し合いでお互いの理解と合意が得られた。

(5)“リーボック (スポーツ用品ブランド)”へのリンクについて

「脚線美」、「健康サンダル」、「散歩」などの記事から「リーボック」へのリンクが貼られたが、登録ユーザーA がこれを「宣伝行為である」として削除し、議論になった。

5. 考察

Wikipedia では一日に一度程度しか発言できないために議論の進行が遅い。また、議論への参加者はもちろん、司会進行役や調停役が足りていない。似たような問題が別の記事、別の時期に議論されていることもあるため、類似事例のまとめを用意すれば人的資源の分散が避けられるだろう。

情報が複数の査読を受けており、尚且つ情報発信者にそれなりの名声があるならば、その信頼性が高いと考える。